

華北大連小旅情

1、はじめに

観光目的ではありませんが、短い日数で訪問する機会が定期的にあるので、垣間見た少々の風景や風情をスナップ写真を集めて少し紹介してみます。彼の地は、ご存知のように明治の時代から昭和の激動の時代にかけて、わが国との係わりの濃い外国の地のひとつではないかと思えます。そしてまた距離的にも近い存在でもあります。また小説やドラマ「坂の上の雲」などでも知られ（見られ）、我が伊予の国とも何か近い距離感を持つ地でもあるような気がします。



ある時、ホテルの一室から眺めた港町大連（大連港）の一コマです。（空の青を少し強調したかった1枚です。かつては「華北の真珠」と歌われた地だそうです、あまりピンときません。）



夕暮れ時の大連市内（左）、朝もや時の大連市内（右）という感じです。

（何処かの地のように、何とやらの影響で、近い先も見えないと言うような体験は、当地ではまだありません。）

2、日本との係わりが残る場所や建物

大連市内で、明治のノスタルジアを残す史跡などは無いようです。（詳しく、探せばあるのかも知れません。）昭和の時代に入ってからの名残は、あちこちに見られるので少し紹介します。

大連駅



上野駅をモデルに造られ、かつては海路の拠点大連港と連動し、当時中国の東北方面に展開された満鉄の始発駅として大変な活況であったと言われます。（満鉄本社も、この大連にあったそうで、建物はまだ残っているそうです。）



今も、出発する人、到着した人の混雑が見られました。（写真左）

駅の正面玄関からの眺めです。昔はどんな眺めであったか想像できません。（写真右）

路面電車

当時、満鉄によって敷設・整備されたインフラの上を今も路面電車が走っています。(年のせいで線路や路盤はかなり痛んでいます。)



大連駅前にある路面電車駅で、ここから東西（あるいは南北？方角は判りません。）に、日本人が居留した古い街があったのだらうと思います。(写真左)

同じ箱は二つとありません。運転手は全員女性です。レトロなものも走ってました。(写真右)



ちょっと古そうな町並みの中を走っていました。(写真左)

こちらはビルの谷間を走っていました。(写真右)



最近行きつけの？電子城の看板を付けた電車も走っていました。(CM出張で知った古い30年程前の中国のバスや電車には何も無かったと記憶しますが、今は車内にも車外にも企業宣伝があふれています。)

中山広場（チューサンヒロバ）

旧市街の中心だったろうと予想される場所に、今の時代では小さな200m程のロータリ広場が残っています。（写真下）



このロータリーを取り囲むように、古くて格調高いヨーロッパ風の建物が残されています。その多くは、日本の手によって設計、建築されたものだそうです。背後の近代高層建築と重なって新旧コントラストが印象的な場所になっています。



そして、その一棟が下の写真、旧大和ホテル（ヤマトホテル）で、当時は超一流ホテルであったそうです。今は大連賓館と名を変えています。



重厚な造りで、周囲の中で一番貫禄があるように思います。



エントランス



ロビー



当時、日本人が居留した家屋は殆ど残っていないようですが、それらしきが少しは見られました。

周辺のプラタナス並木は当時植えられたまま残り、大きいものは幹周り2～3m程の大木になっています。

3、冬の大連

緯度は秋田付近になりますが、平均積雪1 m前後の秋田に比べ、降雪は殆どありません。港は不凍港で、そんな環境が北の玄関口として古くから発展したのかも知れません。下の写真は珍しく雪化粧の大連に出くわした時のスナップです。(わが国でも同じで、雪の珍しい地に降ると、交通は大混乱になっていました。)



4、市内の一コマ



人民広場と大連市政府のある、このあたりが今の大連の中心ということになります。

(昔は、日本の関東州庁とか言う、お役所跡地だそうです。)



曜日や時間帯にあまり関係なく何時も、市内の通るとこ見るとこ何処も、車や人の洪水は絶えない感じで、今もって少し不思議でならない実感をもっています。(みなさん、なにをやっている人達だろうか、どこから来た人達だろうかと思っています。)

5、良い季節の頃、尋ねてきた友人（日本から）と旅順小観光をしました。

大連市街より車で小1時間の距離に、明治の時代日露激戦の地になった旅順があります。



Hill 203、203高地のテッペンです。このたった標高203mの陣地を攻略するため、乃木大将の指揮下、多大な犠牲が払われた歴史の地です。登ってみると湾内のロシア艦隊を砲撃する絶好地であっただろうことも、なるほどとうなずけました。



左の写真は、203高地同様、旅順港を防御するために作られたロシアのコンクリート要塞跡に残る弾痕跡で、この辺りも大変な激戦であっただろうと想像されます。

右の写真は、旅順駅舎です。姿から想像される通り、ロシアの建築によるもので、その後日本、再びロシア、中国と主が移り変わった史跡です。

6、最後に CM 関連スナップを少々



約10年程前、周りは殆ど空き地の草っぱら（土っぱら）に小さな工場を建て、中身は相変わらずで発展しませんが、最近の周辺はこんなになってしまいました。（右）

大連旧市街より車で約30分、空港より同約30分で、場所だけは便利な所にあります。（但し、混んでいない時にです。）

大連から、時々出張する時もあります。



約10年ぶりに北京へ出張しました。遺跡以外は、激変し浦島太郎のようでした。

左；TVなどでよく見る天安門広場

右；その前にある故宮公園内

浙江省杭州から車（高速）で3時間位のところに、安徽省黄山というところがあります。

中国で有名な観光地（山）の一つがあるところです。

大連同様時々行くことになりそうなので、仕事がうまくいったら観光の山に登ってみようと思っています。

以上。Kurahashi